

文化かごしま

第 126号

令和 6 年 1 月 23 日

鹿児島県文化協会

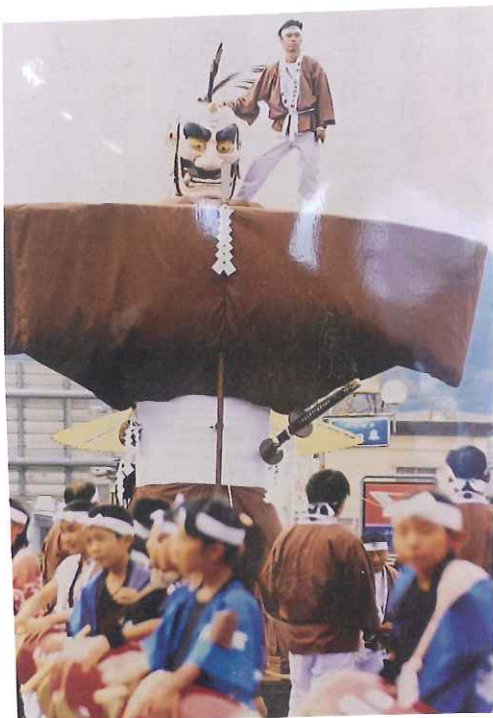
発行人 原口 泉
鹿児島市山下町 5-3
宝山ホール(県文化センター)2F
TEL・FAX 099-223-3123

HP



Email

kabunkyou@yahoo.co.jp
ka-bunkyou@po.minc.ne.jp



▲曾於市「弥五郎どん祭り」



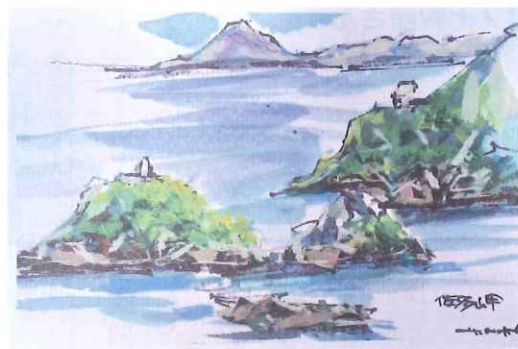
◀桜島
〈西口純一〉



▼猿ヶ城溪谷
〈葛迫幸平〉



▲肝付町「やぶさめ祭り」



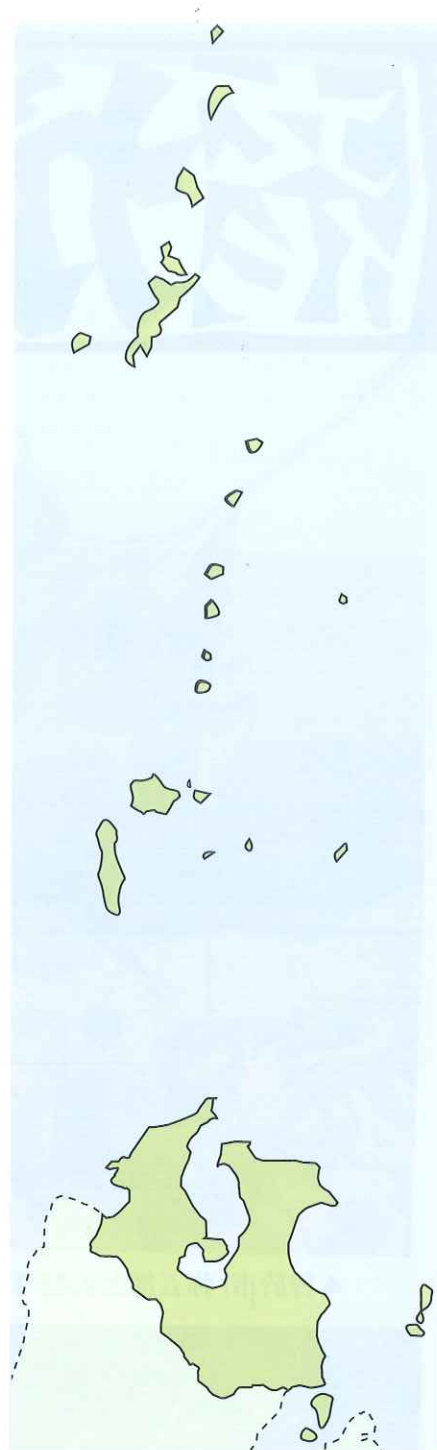
◀佐多岬
〈向吉文男〉



▼錦江町
「大根やぐら」

目次

鹿児島県知事あいさつ	2
会長あいさつ	3
「県民文化フェスタ in いさ 2023」報告	4
鹿児島県大隅の文化活動	7
曾於市末吉・志布志市・大崎町・垂水市・錦江町・ 串良町・輝北町・吾平町・鹿屋市・肝付町	
加盟団体の文化活動	12
いちき串木野市文化協会・錦翔流大正琴・ 鹿児島県俳人会・かごしま探検の会・表千家同門会	
鼎談【世界に誇る鹿児島の食文化 其の四】	15
「ローカルは、これが今、最もグローバルな問題です!!」	
「2023 かごしま総文」第47回全国高等学校総合文化祭	21
プロジェクトメンバーからの提言	25
賛助会員・加盟文化団体・市町村文化協会	27
連載【この人に訊く】VOL 4	29
「海を渡る甲冑に職人魂を見た！」 丸武産業株式会社 田ノ上智隆さん	
賛助会員・寄付金募集	34



上園食品株式会社

住所: 鹿児島県霧島市隼人町眞孝字松山3344番地1



ご挨拶

鹿児島県知事 塩田 康一

鹿児島県文化協会の皆様には、日頃から県民の皆様の文化活動への支援や本県文化行政の推進等に、格別の御支援・御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

また、貴協会加盟の市町村文化協会や各文化芸術団体が互いに連携しながら、県民文化フェスタの開催や機関誌「文化かごしま」の発行、伝統文化の保存・継承など様々な文化芸術活動を盛んに展開されていることに、心から敬意を表します。

令和5年は、7月から8月にかけて、高校生による芸術文化活動の祭典「全国高等学校総合文化祭」、そして、この盛り上がりを受け継ぐ形で、県民の文化の祭典「県民文化フェスタ in いさ2023」が開催されました。

参加された皆様が日頃の練習の成果を発揮し、躍動する姿は、県民に大きな感動をもたらしてくれたことと思います。

さらに、10月に開催いたしました国内最大のスポーツの祭典「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」におきましても、県内各地で実施された文化プログラムを通じて、本県の文化

や伝統などの多彩な魅力を発信できたものと考えております。

また、令和6年2月に鹿児島市で開催されます「県民文化フェスタ in かごしま2023」におきましては、舞台公演に、本県の国際交流パートナーである韓国・全羅北道の文化芸術団体を招聘いたしますので、どうぞ御期待ください。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に変更となり、私たちの暮らしが以前の日常を取り戻していく中で、人と人とを結びつけ、地域に活力をもたらす文化芸術の力を改めて、実感した1年でありました。

県といたしましては、今後とも、「文化の薫り高いふるさとかごしまの形成」に向け、貴協会とも連携しながら、鑑賞機会の充実や伝統芸能の継承などに取り組み、本県の文化芸術の振興を図ってまいりますので、皆様の御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、鹿児島県文化協会のますますの御発展と、皆様にとりまして、令和6年が輝かしく、幸多い1年となりますことを祈念申し上げます。



ご挨拶

原口 泉 会長

発足から五四年目の今年は全国高校総文祭と国民体育大会・障害者スポーツ大会が鹿児島県で催され、文化協会も協力いたしました。

文化協会主催の「県民文化フェスタ in いさ2023」では多彩な芸能が披露され、大好評でした。島唄とオーケストラがコラボした奄美ほこらしや音楽祭、格調高い霧島国際音楽祭もあり、西之表市・知覧町・奄美市など各文

化協会が五〇周年を迎えました。奄美復帰七〇周年記念式典は、文化フェスタ in あまみ2022の感動を蘇らせました。

近く文化協会改革のためのプロジェクト会議提言が出ます。文化振興のために文化協会は生まれ変わります。皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。



夢・快適・文化提案



総合建設コンサルタント

 **大福コンサルタント** 株式会社

本社：鹿児島市東郡元町 17 番 15 号

TEL：099-251-7075 FAX：099-256-8534



【県民文化フェスタ in いさ】

二〇二三年八月二〇日、県下各地から続々と乗りつける自家用車とバスの列。多くの観客で満員御礼となった真夏の伊佐市文化会館。霧島九面太鼓の荘厳な響きが、静まり返った会場に開会を告げました。出演された方々の声とともに報告いたします。



一番最初の出番で緊張しましたが、会場全体をお祝いするという神聖な気持ちで精一杯演じました。

【霧島九面太鼓保存会】



みごとな進行！お疲れ様
【司会 深川真里さん】

楽しかったです。皆さんに喜んで貰って良かったです。
何十年もボランティアでいろいろな福祉施設を回って練り上げてきました。稲作が分かる年代が元気なうちに仕上げていたいと思っていました。

【漆おごじよ会】



上手に踊れました。たくさん練習を積み重ねて二人で合わせられたから良かったです。先生に褒められたときが一番嬉しいです。

【藤間流藤美会】



【原口泉 県文化協会会長】

開会のあいさつ

曲を何度も何度も聴いて内容を考えました。面を付けた瞬間に夜叉になりきる気持ちで踊りました。

【絵川流胡蝶会】



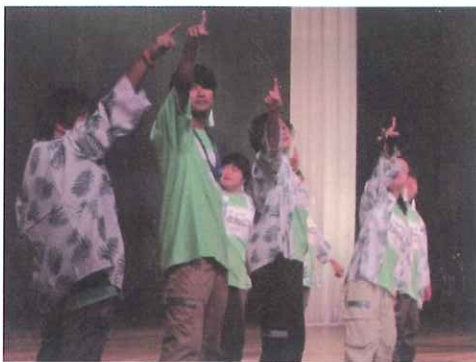
鷺から人間になって恋をするのですけど、鷺に戻ってしまっただけの切ない気持ちを感じてなりきって演じました。

【藤間流秀三華会】



皆で一緒に踊れて楽しかったです。大人数になると活気が出てみんな揃ってもって踊りたいと思いました。

【SMILE・UP Dance Crew】



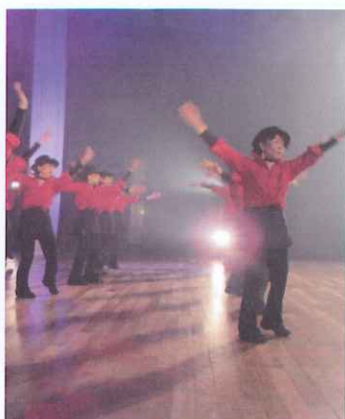
音響担当の方が凄く頑張ってください。気持ちよく歌えました。歌は言葉が大事なので、ピアノが奏でるメロディと共に人間の尊厳を伝えたいと思います。

【kagoshimaカンツォーネ協会】



ダンスの最初から頂いた拍手と終わったときの歓声がワーッと聞こえて嬉しかったです。

【伊佐レクダンス協会】



ほっとしました。緊張しましたが、重ねてきた練習の成果が出てとても楽しかったです。

【ラス・フロレス】



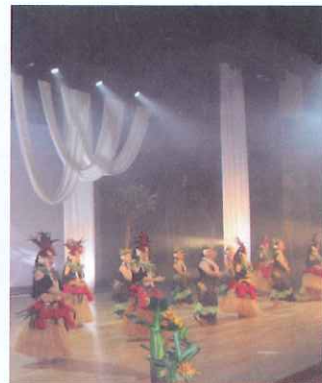
やりました。みんなの心を掴みました。踊るたびに若返ります。80代でも頑張るのが目標なんです。

【ラブリーフレンズ】



こんなにたくさんのお客様で緊張しました。日ごろのレッスンから若いメンバーと心を通わせることを意識しています。

【アールティスタジオ タヒチ&フラ】



いつも以上に今日の演奏はばっちりでした。津軽三味線の激しさ・侘しさ・寂しさを表現したいです。

【石井流秀岱会】



全員で踊りと三味線を合わせたのは今日が初めてでしたが、良い舞台ですごく達成感がありました。

【フブ】



【悦田克己 県観光・文化スポーツ部長】



来賓あいさつ

【津軽三味線&フラメンコによる
創作舞踊 ブブ・秀岱会】

初めて袴を着けてフラメンコを踊りました。自分自身が教えを受けている三味線の先生とフラメンコの先生の両方を橋渡しをするんだという気持ちで頑張りました。



【平川聖一 伊佐市文化協会会長】

ほっとしました。県内各市町村の文化協会が全力で応援してくださったおかげです。現地の実行委員会メンバーもよく頑張ってくれました。舞台から音響から全て、一つ一つが手作りによるフェスタだったと胸を張って言えると思います。今夜はゆっくり焼酎をいただきます。



実行委員長 閉会のあいさつ



歓迎のあいさつ

【橋本欣也 伊佐市長】

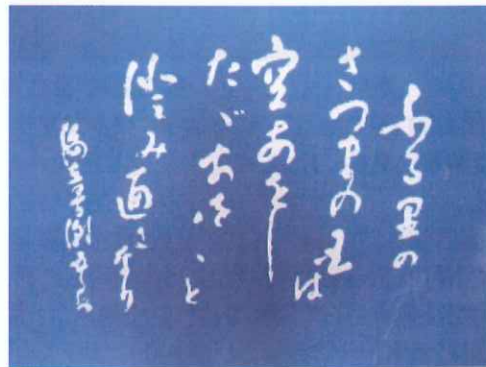
《会場 あれ・これ》



会場全景

【伊佐市文化会館】

【伊佐にこの人 海音寺潮五郎】



伊佐の良いところを感じてほしいです。若い人たちも頑張っています。

【大口高校】



これって誰でしょうね？
閉じ込められちゃいそうです！



文化活動

4年ぶりの発表会フル挑戦

曾於市末吉文化協会

曾於市は大隅半島の北隅に位置します。主産業は畜産を中心に農業がさかんなところです。市内のうち、末吉には「住吉神社の流鏑馬」や「熊野神社の鬼追い」の伝統行事があります。また吉井淳二記念美術展があり薫り高い文化の町をめざしております。

末吉文化協会は、短歌・俳句や書の会、木彫りや陶芸・絵画などの作品制作、太鼓集団や創作舞踊集団などの新しい団体も加わり活動しています。コロナ禍で芸能発表会は中止されてきましたが、作品発表会は続けてきました。今年は4年ぶりの芸能発表会で各団体は練習に励み、当日大成功に終わりました。

市内の財部「溝ノ口洞穴」や岩川「弥五郎どん祭り」も知名度が上がり、来訪者も多くなっております。曾於高校の生徒が育てた黒牛「しえな号」の活躍で、若い世代への期待が高まり、今後の生活文化や食文化への関心が集まって来しました。それらがこれからの文化創造へのあらたな取り組みになるものと思います。文化協会の出番です。



志布志市文化協会

概要

【設立】平成29年4月1日

【構成団体数】8団体

【会員数】630名

【事務局】〒899-7192

志布志市志布志町志布志2丁目1-1

TEL:099-472-1111 FAX:099-473-1880

【行政主管課と担当者名】

志布志市教育委員会生涯学習課生涯学習係

担当:坂元 裕樹

【会長名】堂園 悦子

令和5年度文化祭について

【志布志市総合芸術祭】10月22日(日)13:30~

会場:やっちくふれあいセンター

来場者数:約300人

【松山支部文化祭】10月22日(日)9:30~

会場:やっちくふれあいセンター

来場者数:約100人

【志布志市支部秋の芸術祭】10月29日(日)9:00~

会場:志布志市文化会館

来場者数:約1000人

【有明支部文化祭】11月12日(日)9:00~

会場:有明地区公民館

来場者数:約200人

内容:三味線や太鼓、舞踊やバンドなど多彩なジャンルの舞台発表や陶芸・書道、俳句などの展示発表を行った。

■文化協会だより 無

■今日的課題

会員の高齢化や後継者不足、会員人数確保等

■力点・重要事業

市総合芸術祭の開催と各支部祭の継続的な実施支援



鹿児島県大隅の

第五十回の文化祭を盛大に実施

大崎町文化協会

今年の文化祭は第50回という節目の文化祭で、少しでも多くの町民に観て貰えるよう従来の11月3日の文化の日から第2日の土、日に日程を変更しました。舞台発表では特別に外部からバイオリン・ピアノ奏者を招き、久しぶりのクラシック演奏を鑑賞することが出来ました。展示物では一般参加が多く写真展示、貝殻細工、押し花絵など目を引く作品が多く、水彩画の参加が初めてありました。作品展示では小・中学校の習字・作文・絵画などの生徒作品と、特別に持留小学校の児童のコーナーを設け、子供たちの将来の夢を粘土細工で表す作品が印象的で頼もしく思われました。協会へ新加入してもらった社交ダンス同好会の演舞、小中学校生徒のストリートダンスの特別出演は観客を楽しませてくれました。各同好会の舞台発表は、練習の成果が出ていて良かったです。恒例の抽選会で幕を閉じることが出来、成功裏に終わりました。



垂水市文化協会

概要

【設立】昭和52年度

【構成団体数】29団体

【会員数】207人

【事務局】垂水市田神2750-1 垂水市文化会館内

TEL:0994-32-7551 FAX:0994-32-7554

【行政の主管課と担当者名】

垂水市教育委員会社会教育課文化スポーツ係 川畑・田口

【会長名】西尾 佐代子

令和5年度文化祭について

【実施日】令和5年11月4日、5日

※4日は展示部門のみ。5日は展示、舞台、茶道部門。

【会場】垂水市文化会館

【来場・動員数】約1,200人

文化協会だより

年1回、「文化たるみず」を発行。(第46号)

力点・重要事業

・市民文化祭(第46回)…6月から月に1回、実行委員会を行い、計画的に運営することで、会員の事業として意識づけている。

・若草文学賞(第24回)…平成12年度から始め、青少年の思考力と表現力向上、豊かな感性・情緒の育成を目的としており、市内小中学生を対象に、毎年テーマを決めて作文を募集している。(令和5年度のテーマは「私の行ってみたいところ」、中学生は自由課題。)

グランプリ(1)、最優秀賞(4)、優秀賞(7)、推薦(7)、学校賞(1)を選出し、表彰を行っている。

・研修視察…会員相互の親睦を図る事業の実施。令和5年度は、グラウンドゴルフを実施。(年3回)

今日的課題

・会員数の減少 ・会員の高齢化



文化活動

錦江町文化協会

■概要

【設立】平成17年度

【構成団体数】18団体

【会員数】205人

【事務局】鹿児島県肝属郡錦江町城元963番地

TEL:0994-22-0517 Fax:0994-22-0054

【行政の主管課と担当者名】錦江町教育委員会 田代 真介

【会長名】河野 洋子



■2023年の文化祭の実施

【実施日】令和5年11月3日(金)

【会場】舞台:錦江町文化センター

展示:錦江町総合交流センター

【来場・動員者数】500名

■文化協会だより

有(令和5年3月発行)

■今日的課題

各団体の代表者、指導者の高齢化により団体を維持できず、加盟団体が減少している。

■力点・重要事業

町文化祭を通して、町民、特に子どもたちに文化芸術に触れる機会を与える。



串良町文化協会

■概要

【設立】昭和53年

【構成団体数】21団体

【会員数】149人

【事務局】鹿屋市串良町有里507-1

TEL:0994-63-5030 FAX:0994-63-5201

【行政の主管課と担当者名】

鹿屋市教育委員会 串良公民館 館長 末吉 俊一

【会長名】河野 良幸

■2023年の文化祭の実施

【実施日】令和5年11月3日～5日

【会場】串良公民館別館

【来場・動員者数】

・舞台発表35プログラム 65曲

出演団体26団体 出演187名

・展示発表 798点

・マルシェ・キッチンカー 3団体

・11月3日1,130名 4日37名

5日47名 合計1,214名

■文化協会だより 無

■今日的課題

串良町文化協会は平成初期には文化祭の舞台発表が丸二日間に渡って開催されたり、日本文化が解禁された平成5年に串良町日韓文化交流団を結成し韓国2大都市で単独公演を行うなど大きな盛り上がりを見せていたが会員の高齢化や単位組織の解散などにより弱体化が進んできている。

■力点・重要事業

現在、文化の定義を柔軟に解釈し、芸能文化のみならず地域の中にある生活や食、身の回りにある諸活動にもスポットを当て文化協会があつてそこに加入してもらうのではなく、それぞれの活動や取組を発掘するとともに団体、人を緩やかにつなぐネットワーク型の組織再構築を目指している。



鹿児島県大隅の

輝北まつりとの合同文化発表

輝北町文化協会

輝北町文化協会の文化祭は、毎年、輝北まつりの中で、舞台発表部門十二団体、展示部門三団体として、取り行われており、自力での文化祭発表の余力も予算も会員の高齢化と加盟団体の減少に伴い、輝北まつりとコラボしなければ文化祭ができない状態ではあります。

しかしながら、会員は、平均年齢、七十代ですが、輝北唯一のお祭りとして展示、舞台発表の部門で、お祭りを盛り上げ、輝いて、存在感を実感できる場であり、高齢者ということを忘れさせる楽しいひと時です。これからも、生涯楽しめる文化協会としての活動を目指していきたいと思えます。



吾平町文化協会

概要

【設立】昭和52年8月27日

【構成団体数】20団体

【会員数】250人

【事務局】鹿屋市吾平町麓3408番地1

(コミュニティセンター吾平振興会館内)

TEL:0994-58-6036 FAX:0994-58-6003

【行政の主管課と担当者名】

主管課:鹿屋市教育委員会 生涯学習課

担当者:上清水 健太

【会長名】川崎 重治

2023年の文化祭の実施

【実施日】

令和5年11月4日(土)、5日(日)

※4日は展示発表、5日は展示・舞台発表

【会場】コミュニティセンター吾平振興会館 大ホール

【来場・動員者数】

来場者数:約500人(2日間の合計人数)

■文化協会だより

有(令和5年2月発行)

■今日的課題

協会団体の減少及び会員の高齢化と減少

■力点・重要事業

重点事業:文化祭の開催

■その他

令和5年度から美里あいら文化祭と美里あいら敬老会を同日開催しました。



鹿児島県大隅の文化活動

第五十二回文化祭

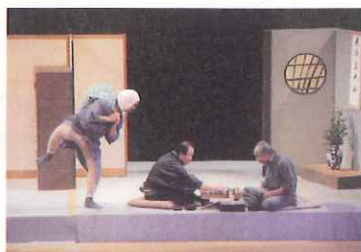
鹿屋市文化協会 会長 上熊須晃

令和元年から始まったコロナ禍により、文化協会の活動運営も大変困難を強いられました。

その中で、毎年文化祭を開催してこられたのも、ひとえに各団体の先生方の、コロナに負けまいという強い気構え・指導と会員の暖かい支援協力があったからだと強く実感しております。

歴史と伝統のある鹿屋市文化協会も昭和四十七年創立され、昨年五十周年記念文化祭を盛大に行い、本年も創立五十年目を迎えた文化祭も会員総力を挙げて「輝け文化の光」のテーマのもと、舞台芸術、展示作品ともに年間を通じて研鑽された成果を十二分に堪能できる内容での発表でした。

これまで先人から受け継いだ素晴らしい芸術文化を継承しつつ、常に新たな地域文化を発展させるためにも、さまざまな伝統芸能や芸術文化活動に取り組んでいます。



肝付町文化協会

■概要

【設立】平成17年7月25日

【構成団体数】24団体

【事務局】鹿児島県肝属郡肝付町前田1020

TEL:0994-65-2594 FAX:0994-65-2595

【行政の主管課と担当者名】

肝付町教育委員会 生涯学習課 中野 雅仁

【会長名】大野 重敏

■2023年の文化祭の実施

【実施日】令和5年11月4日～5日

【会場】舞台発表：肝付町文化センター

展示：肝付町体育館

【来場・動員数】

776名(展示会場にて計測)

■文化協会だより 無

■今日的課題

高齢化による既存団体の活動休止の増

■力点・重要事業

地域に残る伝統文化のアーカイブ事業



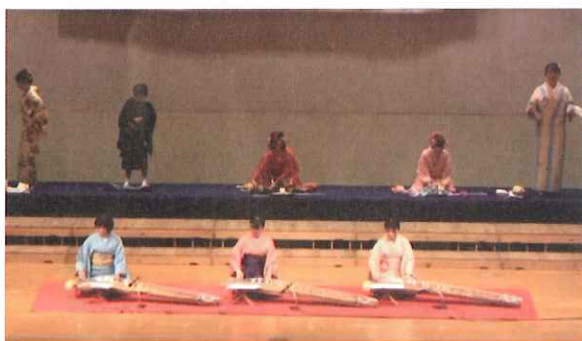
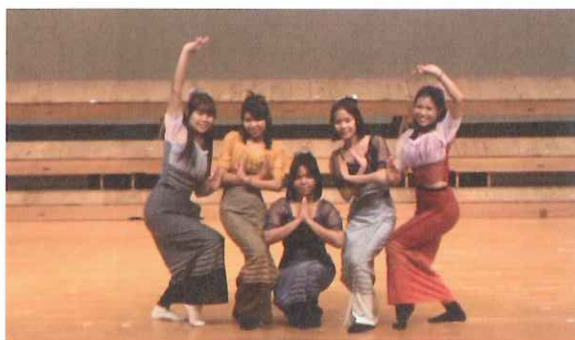
活動紹介

いちき串木野市文化協会

私共いちき串木野市文化協会では、幼児から、学生、一般、高齢者まで音楽を中心に、それぞれの団体を越えて繋がる「音楽のつどい」を開催し、今回で十回目を迎えました。

これまでに閉校になった小規模校の合同演奏、幼児をだっこし、親子で手を繋ぎ歌ったかわいいうステージ、養護施設の皆さんの懸命な演奏、県内から募集し歌い上げるフィナーレのハレルヤコーラスなど多彩なステージで開催して参りました。六地域の特産品協会とも連携し、市外からの参加者には沢山のおみやげを提供し、満員御礼の開催となりました。

次回は令和七年度二月に開催する予定です。沢山の皆様のご来場をお待ちしております。



音楽のつどい実行委員長 川原 純子

活動紹介

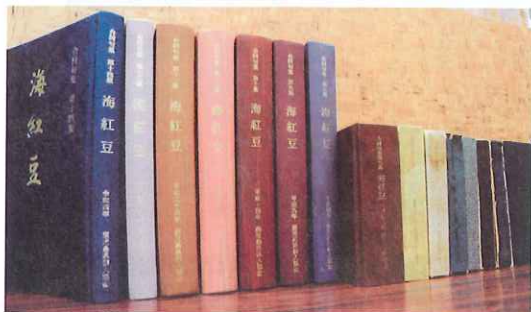
鹿児島県俳人協会

鹿児島県俳人協会（上迫和海会長）は、昭和三十七年一月発足。現在は、県内十の団体（鹿児島・河鹿・草の花・形象・ざぼん・天街・天日・火の島・若葉鹿児島・湾）からなります。

俳人協会・現代俳句協会・日本伝統俳句協会といった全国的な組織がある中、それらと関係していない団体も含め、県内にあつては横断的にまとまっているのが、当協会の特色になっています。ここまで広汎な俳句の団体は、全国でも珍しいと聞きます。

年二回・春秋の「南日本俳句大会」の実施のほか、活動の一つに合同句集『海紅豆』の発行があります。昭和四一年の第一集に二七五名が参加し、四十年間の増加のち、平成一四年の第十集・八七七名が最多となりました。その後二十年間は減少に転じ、昨年発行の第一四集は参加四六七名で半減に近いです。

また、本年四月二九日、「六十周年記念」として、第一二一回南日本俳句大会を開催しました。城山ホテルがごしにて、著名な俳人岸本尚毅氏にご講演をいただき、併せて出席者百名による祝宴を催しました。



県民文化フェスタinいさ2023を視察して

錦翔流大正琴 尾上 和子

地域文化の振興や文化交流の活性化を図ることを目的として平成二十二年から実施されているという「県民文化フェスタ」。今年は八月二十日、伊佐文化会館で開催されました。

久しぶりの大口行きだったので、曾木発電所遺構復旧工事現場と東洋のナイアガラ、曾木の滝をめぐってから会場へと向かいました。

各地からのバスが数台到着しており、会場はぎっしりの観客。やつと座れました。

オープニングは大迫力の九面太鼓。次は始良市蒲生漆おごじよ会の「お米さんありがとう」。昔の米作りの再現。皆さん、生き生きとユーモラスに演じておられました。最後には餅まきまでしてくださり、盛り上がりしました。

どの団体もすばらしいステージでした。楽しい時間を過ごせました。実行委員の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。

これからの活動に活かしてまいります。

ALLIQ
REAL ESTATE

エイデル

鹿児島県営住宅指定管理者

県内9店舗のネットワーク

天文館店・荒田鹿大通り店・谷山店・国分霧島店
鹿屋店・始良加治木店・薩摩川内店・鹿屋西原店・鹿児島中央駅店

※ 活動紹介 ※

NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会について

本会は、2001年12月に法人として認証され、現在まで活動しています。活動開始当初は、鹿児島大学の学生らが中心になり、文化協会の会長もされていらつしやる原口泉先生のご協力を頂きながら「まち歩き」をキーワードに活動してきました。

その間、二回の大河ドラマへの対応や世界遺産の明治日本の産業革命遺産の周知活動、三つのジオパークを楽しむツアーの開催など観光・教育・まちづくりに地域の物語をつなげることを楽しみながら展開してきました。最近では、日本遺産「薩摩の武士が生きた町々麓を歩く」を幅広い年代の方々に知っていただく講演やイベントなどを開催しています。

なかでも「まち歩き」は設立時の2001年から継続して行っていて、鹿児島県内の様々な地域を深掘りしながら歩いています。楽しい活動です。ホームページなどに開催日や内容も記載されているので、ぜひご確認ください。



おもてなしの心

(一社) 表千家同門会鹿児島県支部

当支部は、千利休以来四百有余年の歴史を経て伝えられてきた茶道表千家の門人で構成する団体です。

茶道では、一服のお茶を通じた心の交流を深めることを大切にしていきます。コロナ禍など、ストレスの多い日常生活ですが、おもてなしの心がこもったお茶を介して、ほっとする時間を主客ともに共有できたらと思います。

私どもは、会員向けの講習会のほか、季節ごとの茶会、歳末助け合い茶会、月釜などを開催しておりますが、これらの茶会には広く市民の方にもご参加いただいています。

これからも、市民の方が気軽に茶道を体験できる場の提供に努めるとともに、伝統文化としての茶道の発展、継承に努めてまいりたいと思います。



秋季茶会(市民文化祭参加) ～仙巖園



歳末助け合い茶会 ～山形屋

【世界に誇る鹿児島県の食文化 其の四】

ローカルは、これが今、
最もグローバルな問題です!!



原口 別世界にきた感じです。しばらく言葉はなくてもいいかな。風も通るし虫もいっぱい、新型コロナとか関係ない世界。霧島は神聖な場所でもあります。霧島山麓は開拓農業で拓かれていった。幕末に桂久武が、武士がいなくなる時代を予想して「武士も農業をしよう」というんで開拓して桂集落が生まれたんです。これ、戊辰戦争前の話ですよ。

霧島神宮が国宝に指定されました。九面太鼓の響きと天孫降臨、国作りが始まり米作りが始まった。お祭りのときに赤飯を食べますよね。あれ「満願飯」って言うんですって。

千葉 そうですね。願いがかなったからですね。

岡元 初めて聞きました。

原口 鹿児島県文化協会が昭和四四年に始まったんですよ。初めは県知事さんが会長だったんだけど、今は僕は会長を仰せつかって四年目になるのかな。今は食文化に注目しているんです。特に鹿児島県は、食文化と農村文化の存在が非常に大きい。それで食文化の鼎談シリーズを始めて、四回目になります。最初はモンスターディッシュ、桜島大根、おそらく外国の人はびっくりですよ。注目したのはその成分。

岡元 今話題になっている成分、トリゴネリンですね。

原口 コレストロールとか血圧とか、もう他人事じゃない。桜島大根は、もともと国分大根からだったみたいですね。

千葉 もともと地元の野菜で、昔から作られてきました。

原口 伊敷人参もそうですね。

千葉 伝統野菜は品種改良されてないから生きる力が強いんだと思います。

原口 そう、だからいくらでも新しい品種を生み出すことができる。AIじゃあとても真似できない。僕は歴史学だから、若い人に古文書を解説した物は一次データだよって教えています。農業も原種という一次データを工夫して色々と新しい品種を生み出す芸術じゃないかと思っています。

千葉 そう思います。

原口 それで鹿児島大学の加治屋先生と、桜島でレストランや商品開発をしている中島さんで一回目の鼎談をやった。二回目が世界遺産になった鰹節を

様々な形に展開している枕崎の中原さんと、南大隅町の雄川の滝に洒落たレストランを作って楽しめるアイデアを実践した小園さん。お二方とも非常に面白いことやってるね。そして三回目、新春の仙巖園で黒酢の坂元醸造の坂元さんと芋焼酎の濱田酒造の濱田さんに来て頂いた。やっぱり焼酎と黒酢でしょ、キーワードは何でしょう。

岡元 ああ、麴ですよ。

原口 発酵って奥深いものがあるよね。それで今回は、食を提供している最前線のプロに声をお掛けしたところです。

日本の農業を支えているJ.A. 全中の会長は山野さん、ご出身は大崎町。農水大臣は野村さん。(鼎談時) 野村さんは霧島市隼人。森山さんは首相と水と空気のようなご関係のようですが、彼は鹿屋市のご出身。今、日本の国を任されているのが鹿屋と大崎と隼人出身ってさ、とにかく田舎力って凄い。

千葉 幼少時に田舎で過ごした経験が生きるんですね。

原口 地元っていうか、現場も一次データみたいなもの。原種、野生種、そして現場力。その地盤である鹿児島が凄いです。ローカルは、これが今、最もグローバルな問題であると私は考えているんです。

では、千葉さんからお願います。ここ霧島での活動や歴史をお話ください。

千葉 ここは三千坪ぐらいの土地で、一五年前からお借りしています。活動自体は二〇年前からです。自分も「超ローカルが最先端」だと思ってやっていきます。最初の就職先が霧島の病院で、栄養管理をして患者さんに食事を提供する仕事をしていたのですが、どこか命と食べ物と離れていてしまっていることに気付いたわけです。例えば郷土料理の重要性は分かっているけど、塩分が多いとか糖分が多いっていう視点でしか見られませんでした。それで、もっと食の根源としての命に関わった活動がしたいと思い始めました。お米や大豆ができる現場を学びたいという思いが強くなって、四〇歳のときに霧島食育研



霧島食育研究所

究会の活動を始めて、まず最初に、お米と大豆をやることから始めたんです。

原口 大豆っていうのは、今は、ほとんど輸入でしょう。

千葉 最新の調査では九四%輸入です。大豆から植物油や味噌ができて豆腐ができて納豆ができてという過程を自分自身が体験することで、「食」とそれを支える「農」を霧島の田畑から発信しようと思い「霧島里山自然学校」という活動を始めました。

もう一つは、地域の料理を学び伝える活動です。地元のおばあちゃん達は、レシピなんか無いのに、そこにある食材で、食べる人のことを想像しながら作るんですね。柔らかく煮たり小さく刻んだり、人に合わせて工夫します。その料理を教わりながら、自分の周囲一里四方の人が何を食べているかを聞き取りしました。分かったのは、食べる人が喜ぶように作ることに、保存しやすいように作るということです。

次に、鹿児島県全体の食文化を学ぶ機会を提供したいと「かごしま郷土料理マイスター」という講座を一〇年前から始めました。三六回で約一六〇種類の郷土料理を学ぶ講座で、現在約一四〇名の方が「かごしま郷土料理マイスター」の認定を受けています。

また、「霧島・食の文化祭」というイベントをしています。毎回、いつも食べている家庭料理を持ち寄ってもらって、その料理への想いを書いてもらうようにしています。集まった料理は約一五〇皿です。何気なく作ったような料理にも、食べる人への思い入れが深いことが多くて、そこに、大事なものがあつて気付いたんです。その思いのこもった料理は、令和三年一月一日から十二月三十一日まで、南日本新聞で「かごしま食の歳時記」というコーナーで毎日連載させて頂きました。

原口 写真は全部を用意なさったんですね。凄いなあ。

千葉 今、特に若い世代に伝えたいのが、戦時中に食べたものの聞き取りです。特攻に出撃する前日に奥さんが持ってきたおはぎに砂糖の代わりに干し柿を



つぶし乗せてあった話とか、小学生の女の子が満州から幼い兄弟と引き上げてきて、おばあちゃんの家で白いご飯の上に金山寺味噌をのせて食べたのが今までの人生の中で一番美味しかったとか、こんな切ない食を二度と作らせてはならないという思いを、食の記録を通して残していきたいですね。

原口 貴重なデータですね。四キロ圏内というのは歩いて買い物に行ける範囲。野菜屋さんとか魚屋さんとかあってね。一〇キロ四方は、基盤となる水とか電気とかいろんな問題で人の生活圏を移動でき得る限界。大きな自然災害や戦争があると、生きること自体が難しくなる。だから、千葉さんの取り組みは大事、人材育成をされている。一地域の取り組みだけれども、これは国の全体に関わるのだと思います。

千葉 霧島食育研究会の活動に参加したことがきっかけで、ここ霧島で農業をしている方もいて、様々な苦労があるのでしようが、ここで生きる楽しさとか人と繋がる喜びがあるのじゃないかなと思います。特に霧島は人を排除せずいろんな人をあたたく受け止める力があるので、働く意味をしつかり考えながら暮らす人が多くなっているのかなと思います。

原口 若者は賃金が高い方に出ていく。高速道の地下埋設とか大阪万博の工事とかね。大きなイベントのある所に労働力はどうしても集中する。国全体のバランスが崩れてしまう。

鹿児島に若者を留めるためには給料が良くなっちゃいかん。なのに、最低賃金は全国でも最低だ。若者に「ここにおれ」って言うのは無理。だから、それをカバーするような地元の魅力が、その魅力作りが大切なんですよ。

千葉 食を大切にする文化を霧島で作りたいと思っていて、それが私にとっては最終目標です。

原口 とにかく、千葉さんがやってらっしゃることは凄い。そういう意味で本当の管理栄養士になれたんだ。文化庁のHPにも活動が紹介されていますけれども、農水省も文科省も、一緒にやるべきことですよ。

千葉 去年から文化庁の委託事業で、鹿児島の郷土料理の由来や歴史や調理方法などを動画に撮ってまとめたものを、三〇〇か所ほどの学校に配布しています。

原口 それは手間暇がかかるでしょう。

千葉 学校の先生も、郷土料理に親しむ機会が少なく子ども達への指導がむずかしいと聞くことが多いので、教材として使えるようにいろいろ工夫しています。

原口 話は変わりますが、二〇〇八年の大河ドラマ「篤姫」。指宿の方に宮崎あおいさん達を案内しました。「お腹すいたね」って言うから唐船峡に連れて行ったんです。そうめんを流してみんなで食べようよね。そして、鱒の塩焼きをね、もう猫もまたいで通るような綺麗な食べ方をされた。骨の標本みたい。こんな若い人はなかなかいませんよ。彼女は元々東京育ちでしょう。そしたら、準主役は瑛太さんでしたね。こちらはこんな丸ごとの魚を食べたことないと言うんです。彼のお父さんは湧水町だから薩摩二世だけど、切り身の魚しか知らないと言うんですね。バックに入ったやつ。同じ東京育ちでも、子どものときの環境で違う。やっぱり食育って大事なんですね。

先日、「県民文化フェスタ in 伊佐2023」をやったんです。ロビーで大口高校生が米粉のクッキーを売っていたんです。もちろん定番の伊佐農林「更生の元」もありましたよ。でも、大口高校って普通科高校でしょう。それが校長も教頭も来て売っている。グルテンフリーなんです。そうそう、デインフジオカさんを思い出した。彼にプレゼントしたのは喜界島のソラメ醤油。彼はグルテンアレルギー体質なんです。今後は、そういうことも考えて作るのが大事ですね。

ほかにも宗教的な問題、体が受け付けないなど、いろんな状況を考えるのが当たり前になってきました。多様性ですかね。レストラン運営を任される立場だと、そういう色々な状況をご覧になっているはずですよ。岡元さんには、たわわタウンのレストラン現状と夢をお聞きたいですね。

岡元 もう八年になるんですけど、隣接しているおいどん市場に地域の農家さんが持つてこられるお野菜を中心に「毎日食べても飽きない家庭料理」をコンセプトにしたお料理をビュッフェスタイルで提供しています。家族三代で楽しんでもらう、鹿児島の食文化を知ってもらう、一緒に食べて美味しいうって思って頂いて、こんな料理を家族に作ってあげたいって思って頂くの

を目標にしています。身近な方々が食卓を囲むように楽しんで、そのときそのとき、節目節目の大事なひと時にちょっと和んでもらえるような家庭料理のレストランです。

原口 ちゃぶ台レストランだ。懐かしいですね。

岡元 いろいろ、和食も洋食もありますけど、やっぱり私は自分が今まで食べてきた祖母や母から受け継いできたようなお料理が落ち着くので、昔ながらの惣菜も並べるようにしています。やっぱり新鮮な野菜が一番の売りで、朝仕入れた野菜をその日に切って食べてもらうんです。野菜が一番美味しいと思ってもらえる、どこにも負けないサラダバーです。ドレッシングも知覧のお茶のオイルで作ったり、胡麻ベースだったり、今の時期だと新生姜のドレッシングだったり、季節に応じて手作りしています。

郷土の料理も、例えばお盆の時期だったらほっ

こりしたお煮しめとか、五月にはあくまきですとか、季節に応じてお出ししています。

原口 さっき頂いて、ほんとに美味しかったね。とろけるような餡色のあくまき。

岡元 ああいう懐かしい味は、どこか香りや見た目もそうですけど、五感で感じますよね。地元において絶対に忘れちゃいけない味というか、私が一番表現したいもので、大事にしていきたい郷土の味です。今は、レシピとかネット検索すればすぐに出来ますよね。でも、そこにない、そこでは表現できない作り方ってあります。切り方一つ、焼くときの火の入れ方とか茹で方だとか、そういう加減の仕方をスタッフに伝えたいです。家族揃って安心して美味しいが何よりいいですね。

先ほどアレルギーの話もありましたけど、グルテンフリーのメニューも置



いていて、最近では健康志向が強まって、糖質オフの方々には糖質を抑えたご飯も揃えています。でも、やっぱり素材は鹿児島県産が一番いいですね。

原口 桜島大根もあるんですか。ただね、仕入れるとなると、結構高いでしょうね。

岡元 年々生産量は減っています。旬の時期に出したいのですが、どうしても足りないんです。ちょっと重たいけど、生産者さんには頑張って作って欲しいなって思っています。

原口 今、海外の富裕層が鹿児島の農産物を買っているんです。美味しい野菜が鹿児島にあるというのを鹿児島に来て食べて知ったんです。だから大型クルーズ船が来たら、どんどんたわわタウンに連れていけばいい。(笑) そういう仕掛けもしなきゃいけないよね。とにかく毎日食べても飽きない家庭料理っていうのは最高ですよ。

岡元 季節の野菜をわりと大ぶりに切って、田舎料理みたいになっちゃうと豪快に野菜を味わってもらいたいの、今の時期はトマトを丸ごと使って出汁に浸して、「丸ごとトマト」という表現で出させてもらっています。

原口 皆さんよくあることですが、仕込みの作業とか洗う作業とか、大変じゃないですか。

岡元 もう何キロとかじゃなくて、一〇キロ二〇キロとかの作業ですね。でもやりがいがある仕事です。やっぱり料理って楽しいし、食べてくださる方がいますから。

原口 沖縄の北中城村の話だけど、食と健康で内地から客を呼ぼうとしているんです。沖縄は海だけが魅力ではないと。豊かな野菜や果物を活かした健康食のアピールで長期滞在を促す。世界の富裕層が来るようにするんですね。これに最新の医療機関が一枚加わったら、もう最強かも知れない。

霧島は溝辺に空港があって、鹿児島の食材、野菜・肉・水産物などを東南アジアまで四時間で運べます。トランジット空港(通過する補給基地)になることで、県外からの産物と一緒に運べますよ。二十四時間稼働する空港ができる可能性があるのは鹿児島空港だけなんだよ。きつと島津斉彬だったら、それをやりますよ。九州では鹿児島空港ですよ、ハブ空港(乗

換等の拠点)になれるのは。

地元のもので作る商品の価値というのは凄く高くて、しかもそれは作った人達の満足感をも高める。それが出荷されると鹿児島島の良さが人を通して世界に発信されていくと思っています。だから自由に物流で使うには、シンガポールみたいな軍事基地と縁のない空港じゃないといけない。もちろんあらゆる問題は、政治・軍事・国際関係と絡んでくるわけだけど、それより「とにかく鹿児島が楽しい」「ここを終わの棲家にするよ」って、人から人に紹介したくなるように、鹿児島島の魅力をメッセージとして発信することです。

千葉 霧島里山自然学校の中で子ども達に「お椀一杯のご飯は何粒の米粒から出ているでしょうか」ってよく聞くんです。それが一年間で、一日にお椀二杯として計算をして、それが稲の何株分なのか考えるうちに、その稲を作る田んぼの広さや稲株一本を守る大事さが分かってくるんですね。米作りを実際に体験して、自分が生きている所、住んでいる所の食べ物を進んで食べることで、農家さん達に「これからも私達が食べ続けるから作ってください」と伝えなくてはいけないと思います。

原口 この間、高校総文祭があつて、何か変わったお客さんがたわわタウンに來られた話を聞いたんだけど。

岡元 高校生の評価とか反応とか、高校生って本当にすごく純粋ですよ。素直に鹿児島島の食材を知ろうとして、新しい料理を考えたり、地元食材の背景を深掘りしたりするんですよ。

高校生たちが作る新しいものを理解して、今まで築いてきた伝統とかも大事にしつつも、高校生の新しい感覚も織り交ぜて何かを作り出させていくのが理想になって感じた瞬間でした。「温故知新」って好きな言葉なんですけど、食文化ってこうやって変わっていくんだなって思いました。高校生が作る料



郷土の伝統を引き継ぎながら...

理が、私が今まで頑なに守ってきたものとは全く違う新しい形で出てくる。見た目も違いますが味もそれなりに仕上がっていて、うん。そういった作品を見て、移り変わりを感じながらお料理を作るのが楽しになりました。

原口 今、ネパールとかベトナムの人達がいっぱい働いているでしょう。おそらく外国人の方々が一割以上なければ、日本の経済活動は十年、二十年後にはできないでしょう。

そういう方々と食の文化を共演したり、郷土芸能を交換したりする場を作りたいと、鹿児島県文化協会は目指しているんです。ベトナムやネパールの郷土芸能を演じられるような舞台を鹿児島に作りたい。その際には食文化もしっかり交流するのが大事。それがないと真の交流じゃないですよ。

客をもてなすとき、日本は客間ですよ。でもラテン系の国の生徒は、すぐに台所に行って冷蔵庫を開けるんです。日本の主婦にはすごく嫌われますよね。だけど、勝手に開けて、そこにある食材で自分の母国の料理を作るのだと言う。ホームステイでは、それが本当の交流なんです、世界的には。

千葉 環東シナ海という視点で見たときに、朝鮮半島と中国と台湾の食文化との交流が私たちの「食の文化祭」でもできないかなと思っています。そこで家庭料理が集まれば、お互いを理解できるし、人と人の交流も生まれて、ただ物売り買いするだけじゃない、本当の意味での文化交流が生まれるんじゃないかと思っています。

原口 それから、世界中の鹿児島から出てきた人たちに、「カムバックツアーホーム」のおもてなしをするのも大事だね。沖縄はそれが成功しているよね。鹿児島は国際音楽祭とかベースがあつて、受け入れるキャパシティがあるので、若い人も交えてとにかく一緒にやることです。地域から発するイベントは、大きなビジネスチャンスになるんです。世代と国境がキーワードだね。これだけ。





おかもと まき
岡元 麻記さん

JA鹿児島県経済連直営
農家レストランたわわ 料理長

地産地消型ビュッフェレストランとして
2015年4月オープン。

「毎日食べても飽きない 体に優しい家庭料理」をコンセプトに鹿児島県産の農畜水産青果物の魅力をPR。

毎朝の仕入れを隣接しているおいどん市場谷山館で自ら揃える。

農家から届く鹿児島で生まれ育った旬を丸ごと味わって欲しい思いで、女性料理長として美味しく栄養が摂れる理にかなった郷土料理や家庭料理を大切に、鹿児島で生まれ育った先代方の知恵「食文化」を今に紡ぐ。



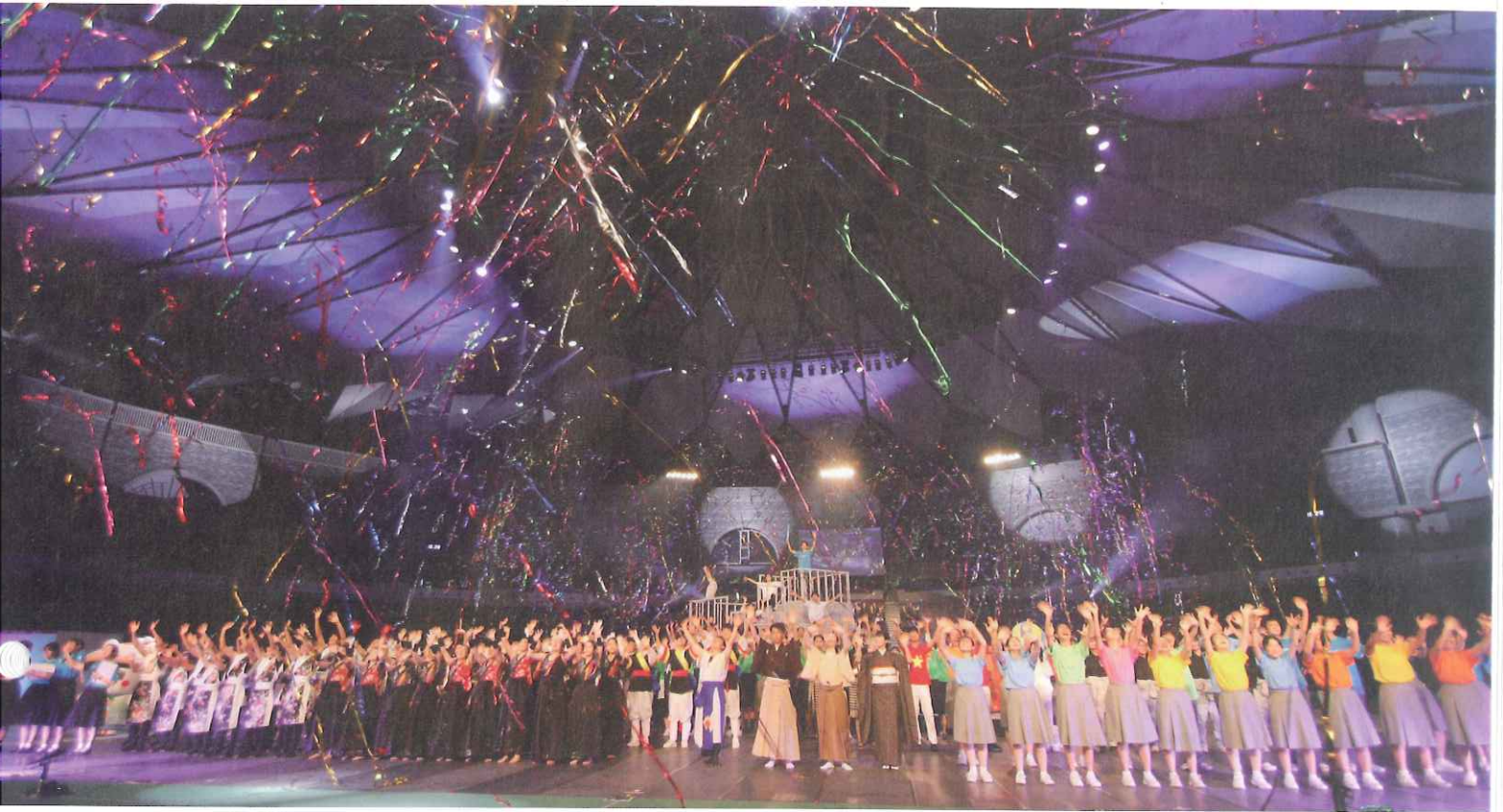
ちば
千葉しのぶさん

1963年 薩摩川内市生まれ。NPO 法人霧島食育研究会理事長。管理栄養士・フードコーディネーター。鹿児島女子短期大学、愛媛大学大学院農学研究科修了。修士(農学)

2004年霧島食育研究会を設立。霧島の畑や田んぼを教室に、そこでできた米や大豆を教科書に、霧島の高齢者を先生に、「霧島で霧島の食育」をスタッフと共に活動。「霧島食べもの伝承塾」「霧島里山自然学校」「霧島・食の文化祭」「かごしま郷土料理マイスター講座」などの主催。著書等:「初めての郷土料理」鹿児島県の心を伝えるレシピ集、「かごしま食歳時記」上下刊(ともに燦燦舎)。

霧島食育研究会の活動で「あしたのまち暮らしづくり活動賞 食育推進部門 内閣総理大臣賞」「読売教育賞 地域社会教育活動部門 最優秀賞」「日本農業賞 食の架け橋部門 優秀賞」「南日本文化賞」「食育活動表彰 農林水産大臣賞」「MBC賞」など受賞。

鹿児島女子短期大学准教授を経て2020年千葉しのぶ鹿児島食文化スタジオ設立。



総合開会式の出演者と生徒実行委員 (2023年7月29日)



第47回全国高等学校総合文化祭

2023 **かごしま総文**

2023 KAGOSHIMA SOUBUN

2023 7/29^{SAT} ▶ 8/4^{FRI}

「高校生による文化活動の祭典 2023 かごしま総文」開催！

「第四十七回全国高等学校総合文化祭（2023 かごしま総文）」が、秋篠宮皇嗣殿下並びに悠仁親王殿下の御臨席を賜り、七月二十九日から八月四日までの七日間、県内八つの市町で開催されました。

大会初日の七月二十九日（土）午後一時から西原商會アリーナで実施された総合開会式には、次年度開催県（岐阜県）の生徒実行委員会や海外から招へいたした高校生など四百四十人が出演し、趣向を凝らしたパフォーマンスが披露されました。県内の高校生キャストによるオリジナル劇や招へいたした国三か国による伝統芸能の披露など、国内外の高校生による素晴らしいステージに、会場からは大きな拍手が送られました。

また、午後五時からは、県立博物館前から御楼門前までの「かごしま文化ゾーン」約六百メートルにおいて、パレードが実施されました。マーチングバンドによる演奏に合わせたバトンやフラッグの演技など、四十九団体千四百八十人による華麗でダイナミックなパレードとなり、沿道で観覧する多くの方々から拍手が送られました。

大会期間中は、演劇や合唱、書道や郷土芸能など二十二の部門大会が県内各地で開催されました。各都道府県を代表する高校生による全国トップレベルの高い芸術文化活動の披露等が行われ、各会場とも大きな盛り上がりを見せてくれました。

開催部門及び主会場・日程

鹿児島市

総合開会式



7月29日(土)【西原商会アリーナ】

パレード

7月29日(土)
【かごしま文化ゾーン(県立博物館前～御楼門前) 600m】

総合開会式・パレードのアーカイブ映像公開中

総合開会式とパレードの様子は、YouTube の鹿児島県公式チャンネルにてアーカイブ映像をご覧ください。

※ 右側の二次元バーコードを読み込むとご覧いただけます。
※ 視聴は無料ですが、視聴環境により通信料が発生することがあります。

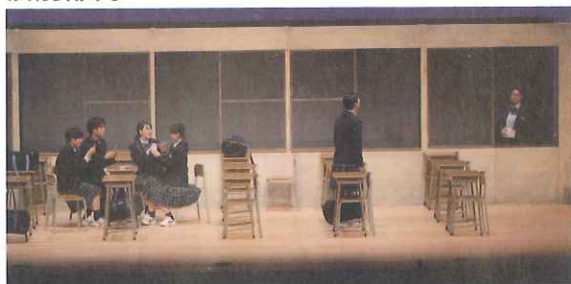


総合開会式



パレード

演劇部門



7月30日(日)～8月1日(火)【川商ホール】

合唱部門



8月4日(金)【宝山ホール】

吹奏楽部門



7月31日(月)～8月1日(火)【宝山ホール】

器楽・管弦楽部門



8月3日(木)～8月4日(金)【川商ホール】

マーチングバンド・バトントワリング部門



7月31日(月)【西原商会アリーナ】

美術・工芸部門

7月29日(土)～8月2日(水)
【鹿児島市立美術館、県歴史・美術センター黎明館】

鹿児島市

写真部門



7月29日(土)～8月2日(水)
【かごしま県民交流センター、鹿児島県霧島アートの森】

弁論部門



8月1日(火)～8月3日(木)【サンエールかごしま】

新聞部門



7月29日(土)～7月31日(月)【志学館大学】

特別支援学校部門



7月29日(土)～7月31日(月)【センテラス天文館】

囲碁部門



7月31日(月)～8月1日(火)【指宿総合体育館】

放送部門



8月3日(木)～8月4日(金)
【かごしま県民交流センター】

小倉百人一首かるた部門



8月2日(水)～8月4日(金)【西原商会アリーナ】

自然科学部門



7月29日(土)～7月31日(月)
【鹿児島大学(郡元キャンパス)、谷山サザンホール】

茶道部門



7月31日(月)～8月1日(火)
【かごしま県民交流センター】

将棋部門



8月3日(木)～8月4日(金)
【指宿総合体育館、指宿白水館】

指宿市

薩摩川内市

吟詠剣詩舞部門



7月31日(月)【SSプラザせんだい】

書道部門

7月30日(日)～8月3日(木)
【サンアリーナせんだい、SSプラザせんだい】

日置市

日本音楽部門

7月29日(土)～7月30日(日)
【日置市伊集院文化会館】

文芸部門

7月30日(日)～8月3日(木)
【始良市文化会館 加音ホール】

始良市

鹿屋市

軽音楽部門



8月3日(木)～8月4日(金)【鹿屋市文化会館】

郷土芸能部門



7月30日(日)、8月1日(火)【奄美文化センター】

奄美市

表彰結果 (鹿児島県関連) ※12部門とパレードで審査が行われ、7部門とパレードで県内14校が受賞しました。

演劇	優良賞・内木文英賞：鹿児島
マーチングバンド・バトントワリング	講評者特別賞：鹿児島実業、実行委員会特別賞：龍桜
写真	優良賞：久保瑠奈（鹿児島女子）、奨励賞：宮崎彩衣（伊集院）
放送	[アナウンス部門] 優秀賞：堅道夕夏（鹿児島純心）、審査員特別賞：相良映美里（鹿児島純心） [朗読部門] 優秀賞：福田葉菜（鹿児島純心） [ビデオメッセージ部門] 優秀賞：甲南、審査員特別賞：国分中央
弁論	文化庁長官賞・優秀賞：川上天歌（沖永良部）、特別賞：田上なな子（出水）
書道	菅公賞・特別賞：奥菜乃夏（鹿児島実業）、特別賞：南花凜（松陽）
自然科学	[研究発表部門] 生物分野奨励賞：錦江湾、物理分野奨励賞：錦江湾、 地学分野最優秀賞：錦江湾、地学分野奨励賞：池田 [ポスター発表部門] 文化庁長官賞・優秀賞：池田、奨励賞：錦江湾
パレード	グッドパレード賞：神村学園中等部・高等部

主催 文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、鹿児島県、鹿児島県教育委員会、鹿児島市、鹿児島市教育委員会、日置市、日置市教育委員会、指宿市、指宿市教育委員会、薩摩川内市、薩摩川内市教育委員会、始良市、始良市教育委員会、湧水町、湧水町教育委員会、鹿屋市、鹿屋市教育委員会、奄美市、奄美市教育委員会、鹿児島県高等学校文化連盟

後援 全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、鹿児島県高等学校長協会、鹿児島県特別支援学校長会、鹿児島県私立中学高等学校協会

問合せ先 第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島県実行委員会事務局
(鹿児島県教育庁高校教育課全国高等学校総合文化祭推進室内)
TEL 099-286-5575 ☐2023soubun-suishin@pref.kagoshima.lg.jp



検索 2023かごしま総文



プロジェクトメンバーからの提言

鹿児島県の文化の未来を切り開く覚悟で
かごしま文化未来創造プロジェクト

県文化協会 川野 秀哉

県文化協会では、鹿児島の輝く未来を創造し県全体の文化振興を図るため、昨年度からプロジェクト会議を始動し、提言をまとめるべく、プロジェクト会議やブロック毎の意見交換会でご意見をいただいております。

現在、具体的な提言にするべく調整中であり、ここには、概略こういった方向性であることを掲載します。

① 保有の文化意義・価値を尊重しつつ新しい文化を創造します。

○ 連動、コーディネートすることの大切さ

多様な人々(外国籍・障がいのある方など)・ジャンルとの連動、創作

地域の中での文化協会の意義・役割を認識し、地域おこしなどの連動

○ 本質を大切にわかりやすく伝える

伝統的文化の本質を大切にしつつ、次世代にわかりやすく繋ぐ。

○ 若者、子ども達、外国人などと連携

部活動の地域移行化や、少子化で活動しづらい学校文化活動などの支援。

発表機会の創出、共に舞台を創るなど。連携から加入への道を探る。

○ 文化施設を自前で活かす。

文化施設の活用を自前で行う。わが町のホールという意識や人材育成。

○ 活動の工夫

リモート活用、体験、ワークショップなどの展開、経済的に自立する意識。

○ 県民文化フェスタの在り方

県民体育大会との対比による検討(あくまでも前身は県民文化祭)

② 伝統文化の継承・発展

伝統文化、継承されず急速に減少が進んでいるのが現実。

何より生活に根差しそこから生まれた伝統文化は、地域コミュニティの衰退を意味し、その地域のアイデンティティまでが失われようとしている。

○ 具体的に継承策を研究する機関・団体が不足

大学機関等と連携し、専門員を置いた伝統文化センター的な機関が必要。

○ 県民文化フェスタで伝統文化フェスタを開催。

○ 地域に根付いた継承策

本質を知り、地域にある継承のカタチを研究し、状況・状態にあった継承。

○ 方言や食文化、伝統工芸など

モノづくりの系譜を受け継ぎ、具体的な活用や振興を探る。

食文化研究団体との連動、昔話やカルタ、さつま狂句など文芸面からの継承。

○メディア活用

鹿児島県の祭りや伝統食、方言など伝統文化を伝える番組をプロデュース。

③育てる文化 生涯学習の観点から

社会教育は、地域を自ら興す意識(人)が育つ。

地域文化を育てていくという観点から学びの場を創造する。

○文化団体に講座の指導者も多く、行政と相談しながら講座の設定を提案。

○学びの場を地域社会情勢(町の方向性)なども考慮しつつ提案していく。

○外国人の方々の存在が高まっている中、理解・共感する学びの場を提案。

○文化施設を自前で活かすための学びの場を作る。

○地域に残る文芸を根付かせるため、講座や学校教育で意図的に仕組む。

④文化協会の組織・機構・財政健全化

財源について

○協賛広告だけからの脱却

○「ふるさと文化応援募金」(仮称)、故郷の文化協会を応援する制度を創設。

○クラウドファンディング活用について具体的なサポート

組織について

【短期目標】

事務局常駐専従体制の整備が、喫緊の課題。

今後の在り方について県文化振興課とも協議を進めている。

【中長期目標】

○地域文化振興のセンター化 これらを事業として県から受託を受ける。

▲県民文化フェスタ拡充や郷土芸能祭などの拡充

▲加盟団体の情報交換、情報発信事業、相談機能の拡充

▲伝統文化センター機能など

○県文化協会として加盟団体への関り

加盟団体へのサポート機能や相談業務など県組織としての機能充実に再興。

全体として

○会員、有識者などと、年次的に具体的な遂行のための議論の場を。

○県行政・議会と定期的な議論をしていく。

○議員連盟を作ってもらい、議会活動で地域文化振興を展開していただく。

※これらを果たすためには、だれのために(県)文化協会があるのか、何のためにあるのかを考え、古い体質からの脱却、大改革が必要と考える。

しっかりと提言や実行できる(県)文化協会となるための組織づくりを。

賛助会員

ご支援ありがとうございます。

上山貞茂

禰久伸一郎

小園しげよし

園田豊

たいら行雄

田之上耕三

鶴藺真佐彦

坂中滋子

本村ヒロ子

川口勝則

中村素子

藤崎剛

松里保廣

吉留厚宏

宇都恵子

村野俊作

岩重あや

池畑知行

本田しづか

柳誠子

有限会社アート印刷

※ 順不同、敬称略

加盟団体(文化団体)

- 鹿児島交響楽団
- 鹿児島オペラ協会
- 鹿児島県吹奏楽連盟
- 鹿児島県合唱連盟
- 鹿児島県おかあさんコーラス連盟
- 生田流箏曲絃音乃会
- 鹿児島県尺八連盟
- 錦翔流大正琴
- ゴッタン成音会
- Kagoshimaカンツォーネ協会
- 鹿児島邦楽夢絃の会
- The Songbird of Gospel (ソングバード)
- 鹿児島県書道会
- 鹿児島県美術協会
- 岡田茂吉美術財団鹿児島支部
- 鹿児島県詩人協会
- 鹿児島県歌人協会
- 鹿児島県俳人協会
- 天秤宮社
- かごしま文芸研
- 鹿児島市民劇場
- 鹿児島県子ども劇場協議会
- 鹿児島謡曲連合会
- 劇団「夢飛行プロジェクト」
- 鹿児島文化交流協議会
- 鹿児島県連合華道会
- (一社)表千家同門会鹿児島県支部
- (一社)茶道裏千家淡交会鹿児島支部
- 前結び宗家きの和装学苑
- 鹿児島県詩吟剣舞道連合会
- 郷土芸能中之町鉦踊保存会
- かごしま探検の会
- 萌桜会

加盟団体随時募集中

新商品



リンゴや洋梨のような華やかな香り

2023年11月発売
アップルランス



大海酒販株式会社

From KANOYA to the World

かのやから世界へ

〒893-0014 鹿児島県鹿屋市寿3丁目2番8号
TEL 0994-42-5238
E-mail otoiawase@taikai-shuhan.co.jp
Web http://www.taikai.or.jp/

加盟団体(市町村文化協会)

- 鹿児島市芸術文化協会
- 吉田地域文化協会
- 郡山地域文化協会
- 三島村文化協会
- 十島村文化協会
- いちき串木野市文化協会
- 東市来地域文化協会
- 伊集院地域文化協会
- 日吉地域文化協会
- 吹上地域文化協会
- 指宿市文化協会
- 南九州市文化協会
- 枕崎市文化協会
- 南さつま市加世田文化協会
- 南さつま市笠沙文化協会
- 南さつま市坊津文化協会
- 南さつま市金峰文化協会
- 薩摩川内市文化協会
- さつま町文化協会
- 阿久根市文化協会
- 出水市文化協会
- 長島町文化協会
- 伊佐市文化協会
- 霧島市文化協会
- 姶良市文化協会
- 湧水町文化協会
- 曾於市末吉文化協会
- 志布志市文化協会
- 大崎町文化協会
- 垂水市文化協会
- 鹿屋市文化協会
- 鹿屋市輝北町文化協会
- 鹿屋市吾平町文化協会
- 鹿屋市串良町文化協会
- 東串良町文化協会
- 肝付町文化協会
- 錦江町文化協会
- 南大隅町文化協会
- 西之表市文化協会
- 中種子町文化協会
- 南種子町文化協会
- 屋久島町文化協会
- 奄美市文化協会
- 大和村文化協会
- 宇検村文化協会
- 瀬戸内町文化協会
- 龍郷町文化協会
- 喜界町文化協会
- 徳之島町文化協会
- 天城町文化協会
- 伊仙町文化協会
- 和泊町文化協会
- 知名町文化協会
- 与論町文化協会

綺麗を着たい人に
キレイを届ける
そこに小さな感動がある

Kaigata Dry

おかげさまで創業60年



本社工場：垂水市海潟1番地



東開工場：鹿児島市東開町3-104

(有) 海潟ドライ

TEL代表0994-32-0520



一般衣料・着物・寝具・シミ抜き・定期集配・制服及びユニホームレンタル詳しくは↑検索

「海を渡る甲冑に職人魂を見た！」

丸武産業社長

田ノ上 智隆さん

聞き手 マサヤタテボウ

Q: 今回のテーマは「交流」です。世代間の交流とか地域の交流、海外との交流において、薩摩の民俗文化をどう継承しつつ発信するのを中心に話を聞かせたいと参ったところです。

A: 私も会社を継承していく上で祖父の代からのことを考えています。鎧や兜っていうのは生活必需品でもありませんから、一口に継承と言っても厳しい部分があつて、昔は鎧兜とかは端午の節句に購入して飾る風習が支流でもありましたけれど、今は時代の流れに伴って少なくなっています。一方で、時代祭りなどの影響から凄くコアなファンも多くて興味があるお子様も多いので、まだまだ需要が伸びる可能性も感じてはいたところです。そこに今回、メジャーリーグの大谷選手に兜を着用して頂いた事で我が社のPRもそうですが、日本の伝統と薩摩川内、鹿児島県をPR出来た事が非常に喜ばしい年になりました。

祖父の時代は、一家に一領鎧兜を持つことがステータスだったという話を、祖父の時代に販売された鎧をメンテナンス



スさせて頂きながら聞きました。祖父の時代は映画撮影で需要の多いレプリカの鎧兜を製造するメーカーさんがございましたので、NHKの大河とか時代劇があるたびにご注文頂いて、月に三〇〇とか四〇〇の数を製作させて頂いていました。職人さんの数も一〇〇名ぐらい、内職さんも何十名いらつしやつたと聞いています。

Q: そんなに。

A: はい、内職さんも結構いらつしやつたって聞いています。現在の大河等では、メインキャストの方の鎧を製作させて頂く事が度々ございます。部分部分で製作させていただいた物をお送りさせていただき、映画会社の美術さんの方で時代考証等に応じてエイジングやモディファイし、時代背景に沿ったような色合いで使用させています。

Q: 「どうする家康」の金の鎧もそうですか。

A: 家康の甲冑も黒塗の状態でお送りさせていただき、監督慣習のもとで色合いを調整し、組み立てを行い使用されている様です。



あかつき舎

カフェ&お買い物

運営: (株)サナス



〒891-0704 鹿児島県南九州市頰娃町別府845
TEL: 0993-38-1000



Instagram
@AKATSUKIYA1





Q 一番最初の大河ドラマ受注は「太平記」あたりですか？

A そうですね「太平記」あとは、萬屋錦之助さんの「破れ奉行」。

Q はいはい、懐かしいですね。

A はい。あの頃、鎖帷子の頭巾を作ったことがきっかけで、いうふうになっています。

Q 忍者の千葉真一さんのもの？

A そうですね、あちらも製作させていただきました。祖父の代の頃はバブル期や高度成長期の時代でもありました。でも、大変苦労したというふう聞いてますよ。元々貧乏な釣竿メーカーからスタートして、鎧兜メーカーへと。趣味が高じての事業展開ですが、とにかくアイデアが凄く手先も器用で、人よりも先に思った事を即行動に進める祖父でした。一緒に歩いてても「小股で歩くな大股で歩け！」「人よりも先を行け」と、怒られた事もありました。なぜこんな事で怒られなきゃいかんのかって思うくらい厳しかったですね。

Q おじいちゃんの人生は、NHKの朝ドラにしなきゃいけ

ないですね。

A この施設を改修する時も理解してもらえらるまでに何年かかりました。でも、一生懸命にしている私の姿を見て理解して貰って、リニューアルオープンの際は涙を流して喜んでくれました。もう他界しましたけれど、今も天国で笑って応援してくれているのではないかなと思ってます。

Q おじいさんから言われた中で、自分の中でずっと大事にしている言葉がありますか。

A ありますね。「やって見せて、やらせて、褒めて」って、そんなこと言っていましたね。それって、物を作ることだけではなくて、親の背中を子どもに見せるのと同じで、言うのは簡単ですけど、言ってやらせるのも簡単ですけど、今と昔は時代が違いますし、人それぞれの捉え方も違いますし、忍耐を持って背中を見せて教えていくしかないのかなと思います。ただ、それに気付いて頂ける方もいらっしゃいますけれど気づかれない方もいたりして、人を育てていく事はなかなか難しいですね。

Q 職人さんにもある程度のルールがあって、やっぱり納得がないとやらないということですね。

A そうですね。社員は家族みたいなものです。

Q 縫製とか、作業する内容によっては伝統工芸士みたいな資格があるのですか。

A 分業ですから、伝統工芸士の資格とかはほとんどないんです。

京都で昔通りに鎧兜を作り続けているメーカーもあるわけですが、ここの発想をまず変えていく必要があります。映画では、軽くて使いやすくて実際に着けた人が動けるとかが

さくらクリニック

宮崎市佐土原町下田島7851-4

TEL:0985-30-1003 FAX:0985-30-1006

のびのびアート・フルケア



介護老人保健施設

エンゼルホーム

宮崎市大字広原1350

TEL:0985-37-1588 FAX:0985-37-1556



ヘルケア訪問鍼灸マッサージ院

あきらめないでその痛み

歩行困難でも訪問での治療が出来ます

無料相談 受け付けます



LINEからもお問い合わせ頂けます



各種保険適用

TEL090-9831-1223

鹿屋市礼元 1-11-15

<https://kanoya-massage.com>

大事になります。俳優さんも色々なテーマを持ちながら仕事をされてらっしゃると思うんです。

Q: 職人さんの平均年齢は、おいくつぐらいなんですか。

A: 平均すると、大体40代ですね。だいたい若い方もおられます。

Q: もっとご高齢の方が多いイメージだった。

A: そうですね。入れ替えをして、新しい職人さんを育てたい思いもあって、極力若い方を雇用させて頂いてます。

Q: 社訓とか方針とかがあるのですか。

A: この事業を継続していくにあたって職人の皆さんに伝えられているのは、やはり笑顔が一番ということです。みんなが笑顔でいられる、仕事がしやすい環境を作り持続していく事が目標です。

自分自身は、地元のこの鹿児島県薩摩川内市で生まれ育ってこういう事業があるっていうのをすごく誇りに思っているんです。

Q: あの「大谷兜」は、エンゼルス球団の方からの発注だったんですか。

A: 実は、エンゼルス球団と弊社はやり取りを一切していません。これ多分、世界的に誰も知らないと思います。世界中の方々が、おそらくエンゼルスと連絡してるって思うのですが、実際は一切そうではないんですよ。多分皆さんびつくりされるでしょうね。ライン交換もメール交換も全く無いんです。「大谷兜」のやり取りは、全て海外向け販売店のサムライストアさんがやり取りしてるんです。

あの「大谷兜」の経緯を言いますと、まず通訳の水原さんからサムライストアに「パフォーマンスで使用する為の兜をこ



用意できませんか?」という内容のメールが来たそうです。

サムライストアから弊社に「すぐに送れる兜がないか」とお話があり、弊社千代田店にストックの兜があったのでその日の内にロサンゼルスへ特急便で発送しました。球団側から言われてから製作発送されたかぶとではなかった事が事実になります。

Q: えええ、びつくり。そうだったんですか。

A: その日に発送して、翌々日にロスに届いて、その翌日にはもう使って頂いてるって聞かされました。

Q: でもちょうどあの赤色、赤っぽい色がちょうど良かったですね。いかにもオーダーメイドのような感じ。

A: 弊社に「甲冑を一式寄贈できませんか」という話が来たんです。

「良かったら一式提供してもらいます」って返事をしました。

- 街に緑を 建築に夢を -



株式会社 東条設計

〒892-0803 鹿児島市祇園之洲町43番地

TEL: 099(248)2251 FAX: 099(248)2261

国際品質保証規格 ISO9001 認証取得

ISO14001 認証取得

国際交流団体

鹿児島文化交流協議会

鹿児島県の素晴らしい文化・産業・観光を全国へ
継続して20年の実績を誇る

〒890-0053 鹿児島市中央町36番地5
TEL 099-254-1402 FAX 099-254-1438

会長 天達美代子



そして「エンゼルスロゴも入れられますよ」って話を伝えたら、「ぜひ入れてほしい」とロゴのデータを頂いて ロゴを入れて送ったっていう流れです。

Q 先ほど館内に展示されてあったのを見ましたよ。かっこよかった。

A 弊社としても、とにかく「今」を継続していくので精一杯な部分がありますが、そんな中でも職人さんのモチベーションを上げて品物をどんどん製作して納めていく、お客様のニーズにすぐにお答えができるというのを最優先していく事を心がけています。

他の業種には着手しないで、製作一筋でやって行こうと思っています。

Q 例えば、飾り物用の小さなサイズの甲冑を作るアイデアとかどうなんでしょう。

A 二四分の一とかでも中はすごく精巧にできていて、高いものは七〇〇八〇万円もするんですよ。

小さくなればなるほど技術的にも結構大変なんです。小さくなればなるほど作りにくくて時間もかかりますし、やっぱりそれを作る職人さんの高い技術に対する対価がすごく高くなってきます。

Q 最後に、今後の戦略みたいなものをお聞きしてよろしいでしょうか。

A そうですね。大谷選手のおかげで世界に向けてっていう部分については、ある程度達成できたと思っています。これからは、世界で唯一、この鹿児島県の薩摩川内市で職人さん達が手作りで鎧兜を製造している工程そのものをぜひ見ていただきたいと思います。世界の方々に観光としてもつと来ていただけたらばと、それが望みですね。来てもらって、見てもらって、体験してもらって、使ってもらって、鎧を着けて楽しんでもらってという。

Q 日本国内からのお客も増えているとお聞きました。人気の甲冑は何ですか。

A 一番人気は家康ですかね。ちょっと前は信長とかです。信長と家康がダントツでやっぱり根強いですね。

Q 僕はてっきり島津家が真田丸かと思っていた。

A やっぱ、天下を取った方が強いのでしょね、鎧兜を買う人は会社の社長とかが多いですから、真田家はやっぱり最後は負けちゃいますから、なんかそういうストーリーがついて回るんじゃないかな。

Q フェラーリやランボルギーニの価格が何千万円もしますが、ほとんど全部がハンドメイドでイタリアの職人さんの手作りですので親近感ありますね。もともと鉄鉾石の塊だったものを、いかに付加価値付けるかって世界だから、本



鹿児島トヨタ自動車

〒892-0847 鹿児島市西千石町1-28 TEL:099 (223) 6161

ホームページ <https://www.k-toyota.co.jp>

後部座席のシートベルト着用もお忘れなく！



内科・呼吸器科・消化器科・循環器科・小児科

かじはらないか

医療法人
育栄会

梶原内科

理事長 梶原 裕二

【月・火・木・金】8:30~12:30/13:30~17:30
【土】8:30~12:30 【定休日】水曜・日曜・祝日

〒899-4352 鹿児島県霧島市国分向花165番地

電話: **0995-47-3363**

田ノ上 智隆 社長 プロフィール

昭和54年9月6日生まれ

平成9年4月 鹿児島県立阿久根農業高等学校機械工学科 卒業
 平成9年6月 松竹衣裳株式会社 入社
 平成15年10月 退職
 平成16年5月 有限会社グックテール 入社
 平成18年9月 退職
 平成19年2月 有限責任事業組合ガレッジサムライ 設立
 平成21年4月 丸武産業株式会社 入社
 現在に至る。



A: やっぱ「人」ですよ。もうね、みんなが笑顔でいることです。
 Q: 今日は本当に有難うございました。
 A: こちらこそ有難うございました。



当に職人さん達をどう育てるかというか、言い方は悪いけども、育てるだけじゃなくてどう食べさせていけるかとか、そういうことに尽きるのでしょうか。会社として「人」をすごく大事にされているってことが、今回よくわかりました。やっぱり「人」なんですね。

医療法人徳洲会

中山クリニック

院長 本間 輝章

鹿児島市中山町2264番地
 TEL (099) 267-8811

大丸グループ

大丸建設(株)・大丸実業(株)・(株)大丸グリーン

取締役会長 藤崎 良隆

本社 鹿屋市川東町7204-6

TEL (0994) 44-3025

FAX (0994) 40-0040

E-mail: info@daimaru-f.co.jp

鹿屋市の文化発展を応援させていただきます

日本の伝統食文化を
守り続けて110年

開聞島



明治45年創業

(株) 中園久太郎商店

〒891-0514 鹿児島県指宿市山川大山860-2
 TEL: 0993-34-1180 FAX: 0993-27-6015

漬物レシピ
 絶賛公開中



医療法人左右会

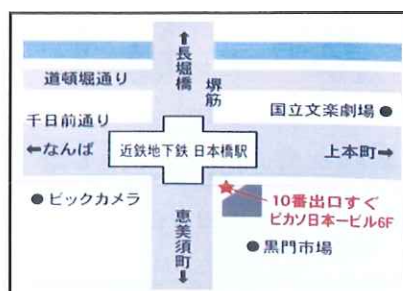
SAYUKAI

理事長 橋口 渡

住所: 〒899-7103

志布志市志布志町志布志1丁目11番12号

TEL: 099-472-1521





国産オリーブオイルの店
SANTA
サンタ

〒892-0828

鹿児島市金生町1-6

TEL 099-806-2096

<https://www.will-santa.jp/>

mail info@will-santa.com

営業時間／11:00-18:00

店休日／毎週月曜日・火曜日

